

小学校第4学年2組 社会科学学習指導案

【日時】令和4年11月2日(水) 10:05～10:50 【場所】4年2組教室 【指導者】堀元 公幹

本授業の主張点

児童が、水害による被害を自分事の問題として捉え、平常時における佐賀市民の防災意識を高めるためにどんな取組を行うべきかについて、追究の視点を生かして議論する姿をお見せします。

1 単元名 自然災害から命を守る

2 単元の構想

(1) 単元について

本単元では、地域の関係機関や人々が自然災害に対して協力をしながら対処してきたことや、今後想定される災害に対して様々な備えをしていることを理解するとともに、平常時における市民の防災意識を高めるために、自分たちにできることを考えていこうとする態度を養うことをねらいとしている。

近年二度にわたって佐賀県に大きな被害をもたらした水害を取り上げる。『伝えよう佐賀の災害歴史遺産(2022年度改訂版)』(佐賀県危機管理防災課発行)においても水害による被害の様子が数多く紹介されており、佐賀県にとって切り離すことのできない水害への備えや取組について学習する意義は大きいと考える。今後、いつ、どこで起こるかわからない自然災害について、防災に向けた関係機関や地域の取組について学習することは、自分の命や暮らしを守る上で必要不可欠なものである。また、本単元で学習する「関係機関との協力」は、中学校で学習する「現代社会を捉える枠組み」につながるものである。さらに、災害に備えて自分たちにできることや社会全体で取り組むべきことについて考えていくことは、社会の一員としての自覚を育むことにもつながると考える。

(2) 児童について

本学級の児童に身近な自然災害を問うたところ、34名中26名が風害、6名が水害、2名が地震と答えており、近年佐賀市においても集中豪雨による被害があったにも関わらず水害に対する危機意識は低い。また、自然災害に備えて家庭で防災グッズを準備していると答えた児童は4名、避難場所について家族と話し合っていると答えた児童は18名であった。このことから、児童だけでなく家庭においても自然災害に対する備えが十分ではないと言える。また、災害が起きた際の関係機関の取組について問うたところ、誰がどのような活動をしているのか具体的に捉えることができていた児童は少なかった。社会科の学び方としては、3年時から経験を重ねてきたことで、社会的な問題について議論し、自分たちの考えを新聞やポスターにまとめて他者に提案する活動まで視野に入っている児童が多く見られる。

(3) 指導について

指導に当たっては、「つかむ」段階で佐賀県の自然災害についての現状を知り、疑問や気付きを話し合うことで何が問題なのかを明らかにする。その上でパフォーマンス課題を設定し、学習の見通しを立てていく。「調べる」段階では、水害発生時の関係機関や地域の連携、次に備えた防災の活動について調べていく。その際に、家族や専門家への聞き取りや、自治体のHPから情報を集め、自分たちの生活と関連付けながら、どのような備えが必要かを考えられるようにする。「高める」段階では、市民の防災意識を高めるためにどのような方策が必要なのかということについて、根拠を明らかにしながら選択・判断させる。その際、「実際にできるか(実現可能性)」「長続きするか(持続可能性)」「効果があるのか(実効性)」「本当に意味があるのか(妥当性)」「誰がすればよいか(主体)」の「追究の視点」を提示したり、必要に応じて教師が発問したりすることで、より社会的な選択・判断ができるようにしていく。「広げる」段階では、社会参画の一つとして市役所の危機管理対策課の方に提案し、児童が考えた方策に対する意見をもらえるようにする。提案するための意見文の作成やプレゼンテーションの準備については、国語科の書く単元「もしものときにそなえよう」と関連付けて行うことで、時間をかけて調べたり、どのような理由を挙げると自分たちの考えが伝わりやすいのか考えたりできるようにする。

(4) 深い学びについて

小学校社会科における社会的な見方・考え方は、「位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して社会的事象を捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること」である。本単元は、「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」に区分することができる。本単元で児童が働かせる見方・考え方は、「関係機関の連携・協力に着目して自然災害から人々を守る活動を捉え、被害状況と災害から人々を守る活動を関連付けて考えること」である。小学校における社会的な見方・考え方の具体は、表1の通りである。

表1 「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」における各学年の社会的な見方・考え方

学年	内容	見方			考え方
		位置や空間的な広がり	時期や時間の経過	事象や人々の相互関係	
3年	・地域に見られる生産や販売の仕事 ・地域の安全を守る働き	分布、地域		関わり、願い、工夫、連携、協力	・比較する
4年	・人々の健康や生活環境を支える事業 ・自然災害から人々を守る活動	環境	維持、向上	事業、役割、協力、連携	・分類する
5年	・我が国の農業や水産業における食料生産 ・我が国の工業生産 ・我が国の産業と情報との関わり	自然条件、分布、地域	変化、向上、発展	役割、協力、工夫、努力、関わり	・総合する
6年	・我が国の政治の働き ・グローバル化する世界と日本の役割		計画、向上、発展	役割、関わり、協力、連携、つながり	・関連付ける

表1に示す社会的な見方・考え方を教師の発問や提示する資料によって働かせながら学ぶ本単元及び本時における児童の姿を、全体要項の「深い学び」に関わる児童の姿と関連させると表2のようになる。

表2 本単元で目指す「深い学び」に関わる児童の姿

	「深い学び」に関わる児童の姿	本単元及び本時における児童の姿
①	学習活動に見通しをもち、計画を立てたり調整したりしながら、粘り強く取り組み続けている。学習課題に対して関心をもち、主体的に課題解決を図ろうとしている。	水害への備えを自分事として捉え、パフォーマンス課題の解決に向け、他地域の事例や根拠となる資料を探し続けている。
②	「見方・考え方」を働かせながら思考・判断・表現し、自分の考えを再構築している。	市民の防災意識を高めるためのプランについて、追究の視点を踏まえて最終的な選択・判断している。
③	知識が概念化し、知識の質が高まっている。	関係機関が連携をとったり地域の人々が協力したりしながら災害に対処していることへの理解が深まっている。
④	学びの成果を次の学習や生き方に生かす目的意識や達成感を得ている。	防災に向けて、自分にもできることに取り組んでいくために、具体的な方法を考えている。
⑤	他教科等の学びの経験を結び付け、意欲を高めたり、解決の道筋を広げたりしている。	国語科の意見文の学習を踏まえて文章を考えたり、プレゼンテーションの準備をしたりしている。

3 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

過去に発生した水害被害や防災・減災のための活動について調べる活動を通して、関係機関や地域の人々は、様々な協力をしながら水害に対処してきたことを理解し、市民の防災意識を高めるために佐賀市が取り組むべきプランを考えることができるようにする。

(2) 評価規準

ア 関係機関や地域の人々は水害に対し、様々な協力をして対処してきたことや今後想定される水害に対し、様々な備えをしていることを理解することができる。【知・技】

イ 調べたことを比較・関連付けたり、総合したりして、市民の防災意識を高めるために必要なプランは何かを考え、理由や根拠を明らかにしながら選択・判断することができる。【思・判・表】

ウ 学習したことを基に、市民の防災意識を高めるためのプランを考えることを通して、よりよい防災の在り方について考えようとしている。【主】

4 単元の指導計画（全 14 時間 本時 13／14 時間目）

次	時	主な学習活動（○）	指導上の留意点（・）	評価規準（◆）【観点】
一 （つかむ）	1	○水害について疑問に思うことや調べてみたい ことを出し合い、パフォーマンス課題を設定 する。 【パフォーマンス課題】 佐賀県では、大きな被害をもたらす水害が続いているにも関わらず、市民の防災意識は十分とは言えない。佐賀市民の防災意 識を向上させるための方策を考え、市役所の方に提案しよう。	・市民の防災意識の低さに気付くこと ができるように、災害発生時の市民 の避難状況や保護者の災害に対する 意識調査の結果を提示する。	◆イメージマップから問いの形にしよ うとしている。【思・判・表】
	2	○パフォーマンス課題の解決に向けて、調べる べき問いを考え、学習計画を立てる。	・パフォーマンス課題を解決するた めに何を調べるべきか問う。	◆パフォーマンス課題を基に問いを考 え、表現している。【思・判・表】
二 （調べる）	3	○近年佐賀市で起きた水害の様子や原因につ いて調べる。	・ハザードマップを提示し、河川の決 壊ではなく、内水氾濫が起きていた ことに気付くことができるようにす る。	◆近年起きた水害の原因について資料 を基に読み取ることができる。【知・技】
	4	○水害発生時に、誰がどのような支援を行っ ているのか調べる。	・水害発生時の資料を提示し、関係機 関の働きや連携に気付くことができ るようにする。	◆災害が発生した時、人々を守るため に関係機関が連携して救助や支援し ていることを理解している。【知・技】
	5	○水害発生時や水害被害に備えて、県や市がど のような対策をしているのか調べる。	・災害情報の発信や嘉瀬川防災ステー ションに関する資料を提示し、公助 に関する取組に気付くことができる ようにする。	◆資料で調べ、国や県、市が水害被害 を防ぐために、計画的に対策をして いることを理解している。【知・技】
	6	○今後想定される水害被害に備えて、地域では どのような対策をしているのか調べる。	・ハザードマップを使い自分の居住地 近くにある避難所や水防倉庫の場所 を確認できるようにする。	◆地域での取組から、防災には共助が 大切だということを考えている。【思・判・表】
	7	○市民の防災意識を高めるために佐賀市が取り 組んでいる方策について調べる。	・佐賀市総合防災訓練の様子や防災に 関するパンフレットを提示し、市の 取組に気付くことができるようにす る。	◆資料で調べ、佐賀市が市民の防災意 識を高めるために行っていることを 理解している。【知・技】
	8	○市民の防災意識を高めるために、他地域では どのような取組をしているのか調べる。	・他地域での取組に関する資料を提示 し、防災意識を高める取組に気付く ことができるようにする。	◆他地域の取組で、佐賀県にも取り入 れた方がいいことがあるか意欲的に 考えている。【思・判・表】
三 （高める）	9	○市民の防災意識を高めるために、どんなプラン が有効なのか考える。	・学習してきたことを基に佐賀市が取り 組むべきことを考えられるように するために、追究の視点を提示する。	◆学習してきた様々なプランの中か ら、佐賀市が取り組む必要があるこ とを選択・判断している。【思・判・表】
	10	○同じ取組ごとにグループで話し合い、追究の 視点をもとにプランについて話し合う。	・グループを編成し、全体で話し合う 準備をできるようにする。	◆資料を基に佐賀市が取り組むべきこ とを考えている。【思・判・表】
	11	○市民の防災意識を高めるための取組について 議論①（A－B）を行う。	・追究の視点を確認し、視点にそって 議論を進められるようにする。	◆市民の防災意識を高めるプランにつ いて、根拠を明らかにしながら、自 分の考えを説明している。【思・判・表】
	12	○市民の防災意識を高めるための取組について 議論②（A－C）を行う。	・追究の視点を確認し、視点にそって 議論を進められるようにする。	◆市民の防災意識を高めるプランにつ いて、根拠を明らかにしながら、自 分の考えを説明している。【思・判・表】
	13 本時	○市民の防災意識を高めるための取組について 議論③（B－C）を行う。	・追究の視点を確認し、視点にそって 議論を進められるようにする。	◆市民の防災意識を高めるプランにつ いて、根拠を明らかにしながら、自 分の考えを説明している。【思・判・表】
四 （広げる）	14	○危機管理防災課の方に提案し、評価を得る。 ○学習を振り返り、感想を書く。	・評価をもらうことで、再度検討でき るようにする。 ・今後、自然災害とどのように関わっ ていきたいかを書かせる。	◆自分たちが考えたプランをより効果 的なものにするために、意欲的に議 論に参加している。【主】

5 本時の指導（13／14）

（1）深い学びに関わる児童の姿

学習活動に見通しをもち、計画を立てたり調整したりしながら、粘り強く取り組み続けている。	○
学習課題に対して関心をもち、主体的に課題解決を図ろうとしている。	○
「見方・考え方」を働かせながら思考・判断・表現し、自分の考えを再構築している。	○
知識が概念化し、知識の質が高まっている。	
学びの成果を次の学習や生き方に生かす目的意識や達成感を得ている。	
他教科等の学びの経験を結び付け、意欲を高めたり、解決の道筋を広げたりしている。	

(2) 指導目標

市民の防災意識を高めるために佐賀市が取り組むべきプランについて、追究の視点を基に話し合うことで、より効果的な方策を選択・判断することができるようにする。

(3) 評価規準

イ 話し合いにおいて根拠を明らかにしながら考えを説明したり、他者の考えと比較したり関連付けたりしながら、最終的な選択・判断をすることができる。【思・判・表】

(4) 「見方・考え方」を働かせる手立て

・協力、連携の見方から多面的に考えられるように、追究の視点（実現可能性）（実効性）（妥当性）（持続可能性）（主体）について問う。

(5) 展開 【 】…予想されるプラン

学習活動と児童の反応（【 】）	教師の働きかけと形成的評価（◆）
1 本時の学習の進め方について知る。（5分） ・今日は私たちのグループだ。早く話し合いたい。	1 本時での話し合いの内容を明確にし、議論に対する内容を高めるために、それぞれのグループの発表資料を事前に教室に掲示しておく。
防災意識を高めるために、佐賀市が取り組むべきプランについて話し合おう。	
2 市民の防災意識を高めるためのプランとその効果について議論を行う。（25分） （1）それぞれの取組について説明する。 【B：防災キャンプの実施】 ・テント生活を実際に体験することで、災害に備えて各家庭で準備しておかなければいけない物資や感染症対策についても確認することができる。 【C：キッズ防災士認定講座の実施】 ・地域の子ども会でキッズ防災士の認定を行うことで、子どもも地域住民の一人として防災意識を高めることができる。	2-(1) 説得力のある確かな根拠となるように、資料を提示しながら発言するように促す。 2-(2) それぞれのプランについての不明な点をなくして話し合いに臨むことができるように、お互いに質問する時間を設ける。 2-(3) 児童の発言のポイントになる言葉を板書したり、矢印でつないだりすることで、各グループの提案内容の可視化を図る。 2-(4) 内容の整理をするために、必要に応じて児童の発言に対し、補足や問い返しをする。 2-(5) <u>追究の視点を基に質問するように促す。</u>
（2）それぞれの取組について質問し合う。 ・防災キャンプはどこで行うのですか。また、誰が防災キャンプの運営をするのですか。市役所の人だけでは、対象とする市民も限られると思います。 ・キッズ防災士の取組をどのようにして継続させていきますか。地域の子ども会だけで継続して取り組んでいくのは難しいのではないのでしょうか。進め方を引き継いでいくための方法がありますか。	◆追究の視点について、複数の視点でプランの内容や効果について考えているか。（発言）【思・判・表】 B 複数の視点を基にプランについて発言している。 C→ 複数の視点で発言した児童を称賛することで、そのよさを価値付ける。
3 3回の議論を通して、考えたことを基に、どのプランが効果的か選択・判断する。 ・ぼくは、キッズ防災士の認定がいいと思います。試験に合格した小学生がボランティアとして活躍した資料もあり、効果があると思う。子どもが取り組むことで、保護者の関心も高まると思う。 ・私は、防災キャンプの実施がいいと思います。自主防災組織の方に協力してもらうことで、どの地域でも実施できると思うから、住民の意識も高くなると思う。	3-(1) 効果的なプランを選択・判断することができるように、掲示物や板書をもとにそれぞれの方策を確認する。 3-(2) より良い選択・判断をするために、これまで準備してきたプランとは異なるプランを選んでもいいことを確認する。 3-(3) 選択・判断の理由の中に追究の視点を入れるように促す。
4 今後の学習の進め方について確認する。（5分）	4 本時で考えたことを中心に、危機管理防災課の方により良いプランを提案することを確認する。

